

<IPA 情報発信第 138 号の内容>

I. 今月のトピックス

1. 「情報セキュリティマネジメント試験」の出題範囲・シラバス・サンプル問題の公開

本試験は、情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善 (PDCA) を通して、組織の情報セキュリティ対策向上に貢献するための知識・スキルを測ることを目的に実施します。

午前試験では、情報セキュリティ全般に関する知識をはじめ、情報セキュリティ管理、情報セキュリティ対策、情報セキュリティ関連法規などに関する問題を中心に出题します。また、午後試験では、内部不正の防止や標的型攻撃への対策、クラウドサービスの安全利用など、業務において直面する身近な事例をベースとした実践的な問題を出题します。

2. 「CEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」へ出展

今回の全体のテーマは「NEXT-夢を力に、未来への挑戦」となっており、IPA でもこのテーマに沿って、安全・安心な IoT 時代を支えるための IPA の取り組みや事業成果と、それらに関する最新技術動向について紹介しました。

3. 「Embedded Technology 2015 (ET2015) / IoT Technology 2015 (IoT2015)」への出展 (開催案内)

IPA は、11 月 18 日 (水) から 11 月 20 日 (金) までパシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) にて開催される「Embedded Technology 2015 (ET2015)」および同時開催の「IoT Technology 2015 (IoT2015)」に出展します。

ET2015 は組込みシステム開発に関わる技術者や開発者に向けた情報発信を行うイベントです。また、今回初開催となる IoT2015 では IoT 技術に焦点を当てた展示とカンファレンスが行われます。

II. セキュリティセンター

1. 11 月の呼びかけ「不用意なクリックで知らないうちに招待メールを送信されるかもしれません」を公開
2. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況
3. サイバー情報共有イニシアティブ (J-CSIP) 運用状況
4. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況
5. サイバーレスキュー隊 (J-CRAT) の活動報告
6. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況
7. 重要なセキュリティ情報 (10 月)

III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「つながる世界のセーフティ&セキュリティ設計入門」を発行
2. 「情報化促進貢献個人等表彰」にて経済産業大臣賞を IPA 顧問が受賞
3. 「IoT 推進ラボ」との連携を開始
4. 「ソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業」の中間報告を実施
5. 組込みシステム技術協会東北支部「オープンセミナー」にて講演
6. SEC セミナー開催報告 (10 月) および開催案内 (11 月)

IV. 国際標準の推進

1. 「変体仮名」を ISO/IEC 10646 規格に追加提案

V. IT 人材育成

1. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験を実施

VI. その他

1. 「IPA シンポジウム 2015」の開催報告

I. 今月のトピックス

1. 「情報セキュリティマネジメント試験」の出題範囲・シラバス・サンプル問題の公開

(担当理事(本部長): 田中、担当センター長: 山城)

IPAは、国家試験「情報処理技術者試験」の新たな試験区分として平成28年4月から実施する「情報セキュリティマネジメント試験」の出題範囲・シラバス・サンプル問題などの詳細情報を10月16日(金)に公開しました。

本試験は、情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善(PDCA)を通して、組織の情報セキュリティ対策向上に貢献するための知識・スキルを測ることを目的に実施します。

午前の試験では、情報セキュリティ全般に関する知識をはじめ、ISMS¹やCSIRT²などの情報セキュリティ管理、不正アクセスや情報漏えいなどへの情報セキュリティ対策、情報セキュリティ関連法規などに関する問題を中心に出题します。また、午後の試験では、内部不正の防止や標的型攻撃への対策、クラウドサービスの安全利用など、業務において直面する身近な事例をベースとした実践的な問題を出题します。

本試験は、業種や職種、部門を問わず、全ての企業・組織を対象としており、部門内で個人情報を取り扱う担当者や外部委託の担当者、情報システム担当者などを主な対象者としています。また、「iパス(ITパスポート試験)」を合格した次のステップとして活用されることを想定しています。

出題範囲・シラバス・サンプル問題などの詳細については、以下のURLをご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/_index_hanni_skill.html

2. 「GEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」へ出展

(担当理事(本部長): 立石、担当所長: 松本)

IPAは、10月7日(火)から10月10日(土)まで幕張メッセ(千葉県千葉市)にて開催された「GEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」に出展しました。

今回の全体のテーマは「NEXT-夢を力に、未来への挑戦」となっており、IPAでもこのテーマに沿って、安全・安心なIoT時代を支えるためのIPAの取り組みや事業成果と、それらに関係する最新技術動向について紹介しました。

IPAブースではIoT時代の街を表現するジオラマ、共通語彙基盤(IMI)を活用したアプリ「減災クエスト」、未踏スーパークリエイターの作品である小型自律飛行ロボット「フェノクス」、動作拡大型スーツ「スケルトニクス」、電磁波で物体を動かす装置によるメディアアート「Pixie Dust」、などの実物展示およびそれらを用いたデモンストラーションなどを実施し、IPAの取り組みを視覚的に紹介した他、「SEC 先端技術入門

¹ ISMS(Information Security Management System): 情報セキュリティマネジメントシステム。情報セキュリティを確保、維持するための、人的、物理的、技術的、組織的な対策を含む、経営者を頂点とした組織的な取り組み。

² CSIRT(Computer Security Incident Response Team): 組織内で情報セキュリティに関するインシデントが発生した場合に、速やかに原因分析や影響範囲の調査などを実施する組織。

ゼミ」と「ブースプレゼン」にて産学官の様々な立場・分野で活躍する専門家、IPAが推薦する若手のクリエイター、IPA職員が合計35回の講演を行いました。また、併設会場にて開催されたコンファレンスやオープンステージプログラムでも合計6回の講演を行いました。

IPAブースおよびIPAが行った講演には、4日間でイベント全体の来場者数約130,000人のうち約5%にあたる約7,000名の方にご来場いただき、講演は満席で立ち見の方がいらっしやるほどの賑わいを見せました。

来場者からは「内容やテーマ、見せ方など興味深い内容の展示が多かった」「若手の技術者・経営者の講演が良かった」などの意見をいただいた一方、「紹介されていた技術は興味深いが使い道がわからなかった」などの意見もいただきました。

IPAでは、これらの意見・感想を活かし、今後もイベントへの出展を継続していきます。

「GEATEC JAPAN 2015」出展の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20151007.html>

3. 「Embedded Technology 2015 (ET2015) /IoT Technology 2015 (IoT2015)」への出展（開催案内）

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPAは、11月18日（水）から11月20日（金）までパシフィコ横浜（神奈川県横浜市）にて開催される「Embedded Technology 2015 (ET2015)」および同時開催の「IoT Technology 2015 (IoT2015)」に出展します。

ET2015は一般社団法人組込みシステム技術協会（JASA）の主催による、製品・ソリューション展示やカンファレンスによって組込みシステム開発に関わる技術者や開発者に向けた情報発信を行うイベントで、日本の組込み業界をリードする企業などが多数参加しています。また、今回初開催となるIoT2015ではIoT技術に焦点を当てた展示とカンファレンスが行われます。

今回は「進化する組込み技術とIoT技術の総合展」としてETエリア、IoTエリアの他にET・IoT共通エリアも設けられ、IPAは共通エリアのブースにて展示や講演を行います。また、併設会場にてIPA/SECの取り組みなどを解説する「IPAセミナー」を同時開催します。

「Embedded Technology 2015 (ET2015) /IoT Technology 2015 (IoT2015)」出展の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20151118.html>

II. セキュリティセンター

1. 11月の呼びかけ「不用意なクリックによって自分名義の招待メールが友人に送信される可能性」を公開

(担当理事(本部長)：立石、担当センター長：頓宮)

IPAは、情報セキュリティに関する11月の呼びかけを11月4日(水)に公開しました。呼びかけ内容は、以下のとおりです。

「不用意なクリックによって自分名義の招待メールが友人に送信される可能性」

IPAに「友人からの友達リクエストと思しきメールが届いたので承認をしたら、自分の名義で同様の友達リクエストのメールがばらまかれたようだ」という相談が、5月以降寄せられるようになりました。

相談によると、この友達リクエストは海外SNSの招待メールであり、相談者のGoogleアカウントに登録されている連絡先に送られていました。その原因は、相談者が自分に届いた友達リクエストを承認する際に、各ネットサービスの一般的な機能である“サービス連携”を許可してしまい、海外SNSに対してGoogleアカウントの連絡先情報(コンタクト)へのアクセスを許可してしまったことにありました。

今月の呼びかけでは、海外SNSの招待メールの事例を基に、“サービス連携”の許可を求められるメールを受信したときの注意すべき点と対策について紹介します。

2015年11月の呼びかけの詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/txt/2015/11outline.html>

2. コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況 [2015年第3四半期(7月~9月)]

~スマートフォン向けワンクリック請求の相談が348件と過去最多に~

(担当理事(本部長)：立石、担当センター長：頓宮)

IPAは、2015年第3四半期(7月~9月)のコンピュータウイルス・不正アクセスの届出および相談の状況をまとめ、10月23日(金)に公開しました。公開内容の概要は、以下のとおりです。

(1) コンピュータウイルス届出状況

今四半期のウイルス届出件数は685件(前四半期比 約11.3%減)でした。ウイルス検出数は3,770個(前四半期比 約72.4%減)、不正プログラム検出数は58,412個(前四半期比 約30.9%減)でした。

(2) コンピュータ不正アクセス届出状況

今四半期の不正アクセス届出件数は18件(前四半期比 40%減)でした。

(3) 情報セキュリティ安心相談窓口の相談状況

今四半期のウイルス・不正アクセス関連の相談件数は3,668件(前四半期比 約1.1%減)でした。

コンピュータウイルス・不正アクセスの届出状況および相談受付状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20151023.html>

3. サイバー情報共有イニシアティブ (J-CSIP) 運用状況 [2015 年第 3 四半期 (7 月～9 月)]

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 頓宮)

IPA は、2015 年第 3 四半期 (7 月～9 月) の「サイバー情報共有イニシアティブ」(J-CSIP³) の活動内容をまとめ、10 月 23 日 (金) に公表しました。

今四半期の活動では、参加組織より 88 件の情報提供を受け、IPA による分析を経て、参加組織へ 33 件の情報共有を行いました。

J-CSIP の運用状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/J-CSIP/index.html>

4. 脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況 [2015 年第 3 四半期 (7 月～9 月)]

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 頓宮)

IPA は、2015 年第 3 四半期 (7 月～9 月) の脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」(ジェイブイエヌ アイ・ペディア) の登録状況を「脆弱性対策情報データベース JVN iPedia に関する活動報告レポート」としてまとめました、10 月 26 日 (月) に公開しました。

2015 年第 3 四半期に、脆弱性対策情報データベース「JVN iPedia」日本語版に登録された脆弱性対策情報は 1,761 件で、2007 年 4 月 25 日の公開開始からの登録件数は累計 56,475 件となりました。

今四半期の Adobe Flash Player の登録件数は 95 件で、今年は 3 期合計で既に 190 件あり、2014 年 1 年間の登録件数 76 件の 2.5 倍となっています。利用者は Adobe Flash Player を常に最新の状態で使用してください。また、Adobe Flash Player の機能が不要な場合にはブラウザ等の設定で無効化する、またはアンインストールするといった対策を取る必要があります。

脆弱性対策情報データベース JVN iPedia の登録状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/JVNiPedia2015q3.html>

³ J-CSIP: Initiative for Cyber Security Information Sharing Partnership of Japan

5. サイバーレスキュー隊（J-CRAT）の活動報告

[2015 年度上半期]

(担当理事（本部長）：立石、担当センター長：頓宮)

IPA は、サイバーレスキュー隊（J-CRAT⁴）の 2015 年度上半期の活動について報告書を 10 月 26 日（月）に公表しました。

2015 年度上半期に「標的型サイバー攻撃特別相談窓口」に対して寄せられた相談件数は 246 件でした。このうち、レスキュー支援へ移行したものは 104 件、オンサイト支援を行った事案数は 31 件でした。

レスキュー支援へ移行した 104 件の組織ごとの内訳は、独立行政法人 16 件、社団・財団法人 41 件、企業 19 件、その他公共機関等 28 件でした。

サイバーレスキュー隊の活動報告の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/J-CRAT/index.html>

6. ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況

[2015 年第 3 四半期（7 月～9 月）]

～Apache Struts 等アプリケーション開発に多用される“開発・実行環境”の脆弱性に注意～

(担当理事（本部長）：立石、担当センター長：頓宮)

IPA は、2015 年第 3 四半期（7 月～9 月）の脆弱性関連情報の届出状況を「ソフトウェア等の脆弱性関連情報の取扱いに関する活動報告レポート」としてまとめ、10 月 27 日（火）に公開しました。

今四半期の脆弱性情報の届出件数は 213 件で、内訳はソフトウェア製品に関するものが 122 件で累計 2,242 件、ウェブサイト（ウェブアプリケーション）に関するものが 91 件で累計 9,030 件でした。これにより、2004 年 7 月の届出受付開始からの累計は 11,272 件となりました。

ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出状況の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/report/vuln2015q3.html>

7. 重要なセキュリティ情報（10 月）

(担当理事（本部長）：立石、担当センター長：頓宮)

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報⁵」として公開しています。

⁴ J-CRAT: Cyber Rescue and Advice Team against targeted attack of Japan

⁵ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

10 月は、「緊急」2 件、「注意」8 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「つながる世界のセーフティ&セキュリティ設計入門」を発行

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、10 月 7 日 (水) に「つながる世界のセーフティ&セキュリティ設計入門」を発行しました。

本書は、9 月 10 日に公開した「セーフティ設計⁶・セキュリティ設計⁷に関する実態調査結果⁸」を受けて、IoT⁹時代における IT 製品やサービスを提供する企業の経営層にセーフティ設計・セキュリティ設計の重要性を啓発するとともに、現場の技術者に対して、セーフティ設計・セキュリティ設計とその見える化¹⁰を実現するための手法を紹介するものです。

IPA は、セーフティ設計・セキュリティ設計の取り組みが進んでいない企業において本書が活用されることで、設計に対する理解と導入が進み、高い信頼性が確保された製品やサービスの開発につながることを期待します。

「つながる世界のセーフティ&セキュリティ設計入門」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20151007.html>

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

⁶ 人命や財産の安全を確保するため、設計の段階で安全性に関わるリスク分析とリスク低減を行うこと

⁷ 情報の機密性や完全性などセキュリティを確保するため、設計の段階で脆弱性の低減や脅威への対策を考慮に入れたリスク分析とリスク低減を行うこと

⁸ IPA「セーフティ設計・セキュリティ設計に関する実態調査結果」(2015 年 9 月 10 日) :

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150910.html>

⁹ IoT (Internet of Things) : 様々なモノがインターネットに接続し、情報をやり取りすること

¹⁰ 設計の品質をエビデンス(証拠)に基づき、第三者でも容易に理解できる表記で論理的に説明する手法

2. 「情報化促進貢献個人等表彰」にて経済産業大臣賞を IPA 顧問が受賞

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、10 月 15 日 (金) に今年度における経済社会の情報化促進に関して、IPA 顧問鶴保征城氏の貢献が認められたことから、「情報化促進貢献個人等表彰」にて経済産業大臣賞を受賞することが決定し、10 月 27 日 (火) に表彰されました。

情報化促進貢献個人等表彰は、高度な情報処理技術の研究・開発、高度 IT 人材の育成、IT の活用が遅れている企業への IT 活用の導入、情報処理の安全の確保等について、先導的役割を果たし、又は顕著な成果をあげたと認められる個人・企業等が表彰の対象となります。今回は IPA の鶴保 征城 顧問 (元. IPA ソフトウェア・エンジニアリング・センター所長) がソフトウェア開発に関する大規模な産学官連携プロジェクトを指揮し、長年実現できなかった産学での現場データの共有環境を実現するなど、我が国のソフトウェア産業の発展に大きく貢献したことを認められ、表彰されました。

IPA では、これからも、IT の活用による快適なくらしや豊かな情報社会を実現するため、社会全体を支える情報処理システムの信頼性向上に取り組んでまいります。

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/info/20151016.html>

3. 「IoT 推進ラボ」との連携を開始

(担当理事 (本部長) : 立石、担当所長 : 松本)

IPA は、産官学でビジネスモデルの創出や規制改革などの検討を行う「IoT 推進ラボ」との連携を開始しました。

経済産業省と総務省は、様々な機器や端末がネットワークでつながり、高度なサービスを生み出す Internet of Things (IoT) が急速に普及していることから、IoT による社会構造の変革やビジネス創出を強力に推進するための組織として、産学官からなる「IoT 推進コンソーシアム」を 10 月 23 日 (金) に設立しました。また、その下に、経済産業省の主導により先進的モデル事業推進ワーキンググループ (IoT 推進ラボ) が設立され、プロジェクト運営を行う IoT 支援委員会が 10 月 30 日 (金) に開催されました。現在、IoT 推進コンソーシアム全体で企業等からの参加は 924 者にのぼっています。

IoT 推進ラボでは、IoT によるビジネスの創出と、そのために必要な規制改革や制度改革を検討していく予定であり、その中核となるのが、会員同士のマッチングによるプロジェクトの実施です。本ラボでは、(1) 成長性・先導性、(2) 波及性・オープン性 (成果物を標準化、社会実装化しやすいかなど)、(3) 社会性 (地域社会課題の解決) の 3 原則に基づき、プロジェクトの採択、管理を行い、「資金」「規制改革」の両面から支援をすることで、大規模な社会実装に向けた規制改革や制度形成などの環境を整えることとしています。

プロジェクトのうち、長期的な取り組みが必要とされるものについては、金融機関やベンチャーキャピタル、産業革新機構（INCJ）が資金支援を行い、短期間での成果が見込まれるものについては、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）及び IPA がプロジェクト支援を担当することとされています。

IPA では、IoT 推進ラボにおける関連プロジェクトの実施や、セーフティ・セキュリティに関する検討を通じ、我が国における信頼性の高い IoT 事業環境の整備に貢献していきます。

IoT 推進コンソーシアム及び IoT 推進ラボの詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.iotac.jp/>

4. 「ソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業」の中間報告を実施

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA が開催する「ソフトウェア工学研究推進委員会」に対して、10月26日（月）に2014年度及び2015年度のソフトウェア工学分野の先導的研究支援事業（RISE）の各研究成果の中間報告が行われました。

IPA が2012年度より実施している「RISE」は、我が国のソフトウェア工学・システム工学の振興およびその成果の産業界への移転を目的として、大学・公的研究機関から研究提案を広く公募し、採択した研究を支援している事業です。

現在、2014年度、2015年度に採択した9件の研究が進行中であり、中間報告では、産業側の立場による意見や活発な質疑応答がありました。中間発表のあった研究9件（大学名、研究責任者名、研究テーマ名）は、以下のとおりです。

大学名（研究責任者名）	研究テーマ名
神奈川大学（教授 木下佳樹）	オープンシステム・ディペンダビリティのための形式アシュランスケース・フレームワーク
慶應義塾大学（教授 西村秀和）	システムモデルと繰り返し型モデル検査による次世代自動運転車を取り巻く System of Systems のアーキテクチャ設計
同志社大学（教授 中田喜文）	日本のソフトウェア技術者の生産性及び処遇の向上効果研究：アジア、欧米諸国との国際比較分析のフレームワークを用いて
工学院大学（准教授 位野木万里）	要求定義の高品質化のための要求仕様の整合性の検証知識の形式知化と一貫性検証支援ツールの開発
電気通信大学（教授 田中健次）	D-Case に基づく議論構造可視化支援ツールの開発と、スマートコミュニティにおける合意形成の実証

名古屋大学（教授 山本修一郎）	保証ケース作成支援方式の研究
広島大学（教授 土肥正）	データマイニング手法を応用した定性的信頼性／安全性解析支援ツールの開発
福井大学（准教授 橋拓至）	携帯端末用アプリケーションソフトウェアが地方経済に与える効果の実証実験評価に関する研究
早稲田大学（准教授 鷲崎弘宣）	測定評価と分析を通じたソフトウェア製品品質の実態定量化および総合的品質評価枠組みの確立

IPA では、中間報告の結果を参考に、更なる成果のブラッシュアップを支援していきます。

RISE の過去の研究成果については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/rise/index.html>

5. 組込みシステム技術協会東北支部「オープンセミナー」にて講演

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、10月9日（金）に大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション（山形県山形市）で開催された「オープンセミナー」にて講演しました。

本セミナーは、一般社団法人組込みシステム技術協会東北支部が主催、山形県次世代コンピュータ応用ネットワーク（YNCA）が共催するもので、東北地域情報関係団体、行政、学術関係者等の交流を促進し、組込み情報技術の普及を図るための講演を行うものです。

IPA は本セミナーにおいて、「失敗から学ぶ組込みソフトウェア高信頼化のためのアプローチ法紹介」と題し、組込みソフトウェアや組込みシステム等の障害事例の収集・分析と分析から得られた教訓の情報共有の取り組みや、障害分析手法について講演を行いました。

本セミナーでは20名以上の方に参加いただき、来場者からは「SECのドキュメント成果物の読み方・活用方法がよくわかった」「多くの分野に共通する内容であり、人材育成にも利用できるためSECの成果物は有効である」といった意見をいただいた一方、「休憩を入れながら、もう少し時間をかけて説明する内容だと感じた」という意見もいただきました。

IPA では、これらの意見・感想を活かし、今後も講演活動を実施していきます。

6. SEC セミナー開催報告（10月）および開催案内（11月）

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

10月は、次の日程で実施しました。

- ・ SEC 高信頼化技術セミナー
厳密な仕様記述入門 仕様書について考えるワークショップ（10月5日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151005.html>
- ・ アジャイル開発実践セミナー
「アジャイル型開発におけるプラクティス活用リファレンスガイド」の勘所と活用方法（10月7日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151007.html>
- ・ ソフトウェア品質向上のためのコーディング技法と標準
～安全で高信頼なシステム／製品の開発に向けて～（10月14日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151014.html>
- ・ 3500 プロジェクトの開発データで実証された品質マネジメントのヒントと現場事例
～ソフトウェア開発データに基づく信頼性・生産性向上に向けたメッセージ～
（10月16日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151016.html>
- ・ 定量的なプロジェクト管理・プログラム管理のススメ
～見える化による生産性・信頼性の向上～（10月30日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151030.html>
- ・ 共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～
（11月4日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151104.html>

11月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ プロセス改善推進者育成セミナー@札幌
～プロセス改善概説と改善ツール体験～（11月14日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151114.html>
- ・ ET2015／IoT2015 併催：IPA セミナー（11月19日、20日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151119.html>
- ・ システムの超上流から残念なシステムを無くそう
～ゴール&ストラテジ入門～（11月21日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151121.html>
- ・ 『ゴール指向経営』 的を射た IT 投資、利益を生む組織に
～「GQM+Strategies」の活用で組織内の整合性確保と定量的管理を実現～
（11月25日）
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151125.html>

- ・ SEC 高信頼化技術セミナー
モデルベースシステムズエンジニアリング (MBSE) 入門
～導入のポイントと適用事例の紹介～ (11月26日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151126.html>
- ・ 第4回 定量的マネジメントセミナー (11月27日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151127.html>
- ・ SPEAK-IPA 準アセッサ育成セミナー (Advanced)
～プロセス・アセスメント研修 (アドバンスト)～
(11月30日～12月2日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151130.html>
- ・ 事例から学ぶ IT サービスの高信頼化へのアプローチ
～障害事例の分析から導かれた情報処理システム高信頼化教訓集～
(12月4日)
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151204.html>

IV. 国際標準の推進

1. 「変体仮名」を ISO/IEC 10646 規格に追加提案

(担当理事 (本部長) : 立石、担当センター長 : 田代)

IPA は、10月に島根県松江市で開催された文字標準化に係る国際会議 (ISO/IEC JTC1/SC2 会議) において、「変体仮名」の標準規格案を提案し、受理されました。

提案した「変体仮名」は、戸籍統一文字に收容された 168 種と、日本語文字・表記史や日本史学等の分野で必要とされる学術用変体仮名 264 種の和集合 299 種となります。

変体仮名の標準化については、過去にも何度か検討されたことがありましたが、見送られてきました。その主な理由は、変体仮名は、漢字を崩した手書き図形を元としていることが特徴で、崩し方に幅広いバラエティがあり、文字の形状によって同定することが困難とされてきたからです。

そこで、今回、文字の形状の一致度よりも、むしろ「音価 (読み方)」と「字母 (元となった漢字)」との組によって識別することを基本とする考え方を提案し、各国代表から理解を得ることができました。

国際標準の正式登録に向けて、今後の進展をご期待ください。

提案中の「変体仮名」は「MJ 文字情報一覧表 変体仮名編 Ver. 001. 01」として公開中です。詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://mojikiban.ipa.go.jp/4488.html>

V. IT 人材育成

1. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験を実施

(担当理事(本部長)：田中、担当センター長：山城)

IPA は、平成 27 年度秋期情報処理技術者試験を 10 月 18 日(日)に実施しました。合格発表は、基本情報技術者試験が 11 月 16 日(月)正午、その他の試験が 12 月 18 日(金)正午の予定です。

平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の合格発表に関するスケジュールは、次の URL をご覧ください。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_00topic/topic_20151018_schedule.html

なお、本試験の「問題冊子・解答例」は、次の URL からご覧頂けます。

http://www.jitec.ipa.go.jp/1_04hanni_sukiru/mondai_kaitou_2015h27.html

VI. その他

1. 「IPA シンポジウム 2015」の開催報告

(担当理事：田中、担当部長：中村)

IPA は、「IPA シンポジウム 2015」を 10 月 21 日(水)に、東京ミッドタウンホール(東京都港区)で開催しました。

本シンポジウムは、国内外から有識者を招き、IT による“つながり”と“情報の新しい価値”、そして“変革”をテーマに、ビジネス戦略、人材の育成を含めたマネジメント、そしてテクノロジーの観点から課題等を明らかにし、我が国の成長と発展に寄与することを目的に開催しました。概要は、次のとおりです。

【基調講演】

「IoT (Internet of Things) の最新技術動向とビジネスインパクト
～IoT を基軸にした攻めの IT 経営へのヒント～」

梶本 一夫氏 (パナソニック株式会社 全社 CTO 室 ソフトウェア戦略担当理事)

【主な講演とパネルディスカッション】

「インダストリー4.0：ドイツが国を挙げて取り組む第 4 次産業革命
～IT でつながる製造業の未来～」

川野 俊充氏 (ベッコフオートメーション株式会社 代表取締役社長)

「つながる時代におけるサイバー攻撃の潮流と企業におけるセキュリティ」

西本 逸郎氏 (株式会社ラック 取締役 最高技術責任者)

名和 利男氏 (株式会社サイバーディフェンス研究所 専務理事/上級分析官)

高橋 正和氏 (日本マイクロソフト株式会社 チーフセキュリティアドバイザー)

立石 譲二 (IPA 理事) ※モデレータ

上記のほか、マネジメント分野では、米国からトレーニング評価分野のリーダー的存在として、「New World Kirkpatrick Model」の開発者であるジム・カークパトリック博士をお招きし、現代社会における効果的な人材育成・教育評価に関する講演や、テクノロジー分野では、東京大学大学院から松尾豊准教授をお招きし、今後注目の高まる「人工知能」、「ディープラーニング」の最新動向に関する講演をいただきました。当日は多数の皆様にご来場いただき、回収されたアンケートなどからも大変好評を頂いています。

「IPA シンポジウム 2015」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/event/ipasympo2015/index.html>

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構
戦略企画部 企画・調査G 笛木・中山
〒113-6591
東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
文京グリーンコートセンターオフィス
TEL : 03-5978-7503
E-mail : spd-plan@ipa.go.jp